



休日 日曜 祭日  
一ヶ月 廿五 二日  
郵税十五 一四〇 二  
廣告料 一行四〇 二  
場所指定 廿 二  
發行所 福島縣平野町大町五  
牛谷 政 幸  
新報社

### 一週一言

自力更生と云ふことが現  
今大きな聲で叫ばれてゐる  
が云ふまでもない自己全幅  
の力を以て最善の策を立て  
よと云ふことで時下の難況  
打開の途として至極當然な  
謂ひ方である。

## 金成氏の固い決意 多額議員に立候補 既に猛運動を開始する

今更三世相に附會するの  
でもないが吾人は好況時代  
の過去に於て餘り恵まれ過  
ぎた現在にして即ち自力更  
生の覺りがなければ佛の因  
縁説そのまゝ未來は三途の  
苦に落ちるのみである。

多額議員の選挙は來九月十  
日の期日を控えて愈々氣分  
の濃厚化を呈して來たが濱  
通り三郡を初め縣下各地の  
同志に推されて立候補を聲明され  
同志に推されて立候補を聲明され  
同志に推されて立候補を聲明され  
同志に推されて立候補を聲明され

## 街は火の海人の波

### 夜半に高萩さ久の濱行き

心細い財況を世界的とは  
云ひ吾人が好況三昧に耽つ  
た反動的打撃も少なくない  
のであつて社會の種々態に  
は男子の遊、女子の贅を見  
るが如く今尚ほ到る所に其  
の臭味が残つてゐる。

石城名物のデヤンガラ念佛  
盆踊に賑はふ日が近づいて  
や盆踊に賑はふ日が近づいて  
や盆踊に賑はふ日が近づいて  
や盆踊に賑はふ日が近づいて

## 片倉と郡山の 團體海遊

### 四倉の賑はひ

石城の各海水浴地は昨日  
の日曜と今日の土用終りで  
非常な賑はひを呈し殊に昨  
日は平町片倉製糸三百名の  
慰安團體及び郡山市から六  
百の團體を迎へた四倉海岸  
は無慮萬餘の盛況で同町で  
は四倉小唄その他藝妓の手  
踊を以て終日を慰めた

## 美擧

### 一青年の

橋谷田部長の息  
石城郡飯野村の中山渡邊十  
太郎(一七)は本春以來動脈  
硬化症腦神經に罹り自宅に  
療養してゐる此の程病氣亢  
進で町から藥を求むるに  
も家人少なに困つてゐると  
折柄通りがかつた一人の青  
年が次第を聞いて 情し融  
暑の中の往復約三里を自転  
車を飛ばして望みの藥を買  
ひ求めてくれた親切に前記  
十太郎は涙を以て禮を述べ  
ながら氏名をたづねたがそ  
れには答へず立ち去つた終  
まつた青年の美擧が附近の  
繪の様に美しいのに反して

## 夫の不在を知つて 若妻の寢床に忍ぶ

### 鎌田町居住無職の下卑男 強姦未遂で目下取調中

評判になつてゐるが同人はの一般に對する懇切さと共  
平署の調査部長橋谷田氏のに賞めものとなつてゐる  
息實(一七)君と判り同部長  
の如く上下二本の臨時列車  
を運轉することになつた。  
△上り平發午後十二時半  
高萩行き(或は若干繰上  
げて准急前に高萩驛まで  
乗つける事もある)  
下り平發午後十二時十分  
久の濱行き(以上)

## 一家五名の チブス

### 飯野村薬谷で

石城郡飯野村の中山字薬谷  
農矢吹淺之助方に於て一家  
五名が枕を並べて寢てゐる  
のを発見した志田駐在巡査  
が時節柄懇切な注意を以て  
去る二十八日平町若松醫師  
の診断を受けしめ左記五名  
何れもバラチフスと判り即  
日隔離收容したが同病の發  
生は二十三日頃から水田  
除草に生水を飲んだことも  
原因してゐる由、  
△矢吹としの(二三)、矢  
吹菊治(一〇)、同みつる  
「私は非常に唱歌は上手で  
振ひ方を世に所謂三振ひ  
の振ひ方を世に所謂三振ひ  
の振ひ方を世に所謂三振ひ  
の振ひ方を世に所謂三振ひ

## 水泳の延期

### 石城郡小名濱に於て昨五日

石城郡小名濱に於て昨五日  
開催の筈であつた江名、小  
名濱、入山三ヶ小學校水泳  
競技會は都合により無期延  
びた。

## 五人殺

### 探偵 蕨野 骨助

洗滌をして呉れた事。煙草  
錢を呉れた事。着物を買つ  
た事。遣つた事等を擧げて彼  
女の熱情の程を立証した上  
あなたの前鼻口耳などは  
あなたの丈で立派な藝術品  
だが、それらが美妙に配置  
されてゐるのであなたの顔は  
繪の様に美しいのに反して

## 臨海一通信

### 四倉の平第一校

皆幾分黒がつた様です先  
生のお話では三日目が一番  
いけないそうです。  
一、午前六時、海岸でラ  
デオ體操と散歩。  
二、七時朝食。  
三、九時まで自習。  
四、九時から水泳。  
五、十二時から二時まで  
晝食と午睡。  
六、四時まで水泳。  
七、六時半まで自由時間  
八、七時から茶話會。  
九、九時就寢。

## 一家五名のチブス

### 飯野村薬谷で

石城郡飯野村の中山字薬谷  
農矢吹淺之助方に於て一家  
五名が枕を並べて寢てゐる  
のを発見した志田駐在巡査  
が時節柄懇切な注意を以て  
去る二十八日平町若松醫師  
の診断を受けしめ左記五名  
何れもバラチフスと判り即  
日隔離收容したが同病の發  
生は二十三日頃から水田  
除草に生水を飲んだことも  
原因してゐる由、  
△矢吹としの(二三)、矢  
吹菊治(一〇)、同みつる  
「私は非常に唱歌は上手で  
振ひ方を世に所謂三振ひ  
の振ひ方を世に所謂三振ひ  
の振ひ方を世に所謂三振ひ  
の振ひ方を世に所謂三振ひ

## 水泳の延期

### 石城郡小名濱に於て昨五日

石城郡小名濱に於て昨五日  
開催の筈であつた江名、小  
名濱、入山三ヶ小學校水泳  
競技會は都合により無期延  
びた。

## 五人殺

### 探偵 蕨野 骨助

洗滌をして呉れた事。煙草  
錢を呉れた事。着物を買つ  
た事。遣つた事等を擧げて彼  
女の熱情の程を立証した上  
あなたの前鼻口耳などは  
あなたの丈で立派な藝術品  
だが、それらが美妙に配置  
されてゐるのであなたの顔は  
繪の様に美しいのに反して

### 銷夏漫錄 (五)

子規句集を讀む

滿州楚男

まづ時節向の句からボツ  
列舉して見ませう、  
鄙の家に赤き花咲く  
暑さかな

鄙の家とは田舎の家の事である、それも大百姓の堂々たる構へでなく、藁ぶき家根のさゝやかな小百姓の家の庭先に何の花か真赤な花が咲いて居る、それは暑い日であるのに此倒れさうな低い家に對照する赤い花、暑いが上にも愈々暑さを感じます

やせ馬の尻ならべたる

暑さ哉

五六頭乃至拾數頭の瘦馬が暑い日のてるそこらにつながれてズラリと尻を並べて居る馬市の光景でもありませうか其並んだ馬の尻があるひは毛が抜け或はすく破れて居るのがいたく暑く暑い感じが一層強い此馬がもし瘦馬でなく毛並の綺麗な肥馬であつたらこんな熱感も起るまいが瘦馬を出したのが此句で手柄でありませう、

思ひけり

通常人ですへ酷暑に堪え兼ねた時はこんな感じを起し易いのです、然も子規は病床に仰臥して殆んど寝返りも出来なかつたのでありませう、其境遇を想察して此句

を讀んでごらんさい誰か涙なしに居られませうか、こう云ふのが眞の俳句と云ふのでせう。

病淋・毒梅・科兒小・科外内  
**市原醫院**  
平町  
(番四一一話電)

スペイン G.H.N 元 詰  
甘味葡萄酒  
ゴルフポートワイン  
1・10  
御婦人の方には少し水を加へて召し上ると風味一層佳良です  
(平二) 西村屋藥舖 (七三)

**お醤油は**  
……ヤマフル

醤油味噌  
たひら正宗  
鯉節食料品

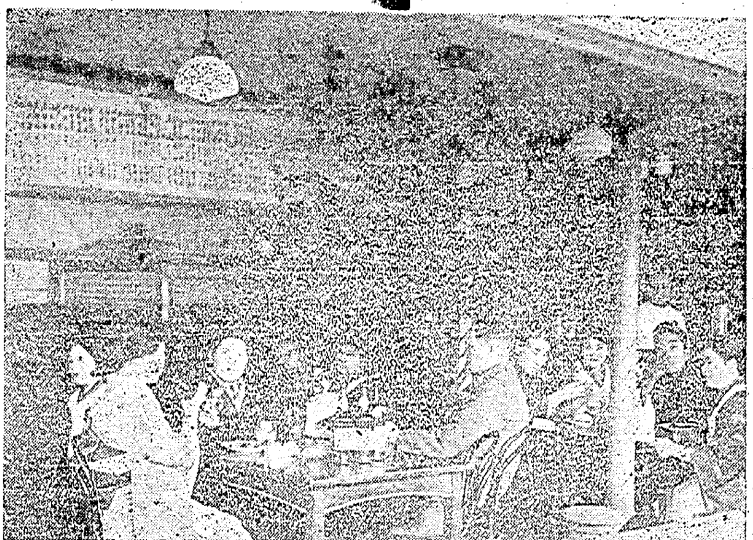
鹽屋  
**山崎台名會社**  
電話(本島) 二一七〇  
電話(本島) 二一七〇  
電話(本島) 二一七〇

代理店  
**明治生命**  
鹽屋  
**山崎興三郎**

仲町に洋服屋が出来ました  
工賃本位が弊店のモットー  
正確と迅速他の追従を許さぬ勉強

最新流行 洋服調製  
**信夫屋洋服店**  
店主 齋藤 一平

(部一の堂食)



ランチ四品付 五十錢 五品付定食 壹圓  
支那料理 ボタン  
電話 五七六番

**提チン**  
御新佛、御供養  
御戒名入提灯の大奉仕

瓜形 一對房付 金壹圓五拾錢ヨリ  
角形 同 金壹圓九拾錢ヨリ  
其他岐阜提灯種々取揃へてあります  
是非御下命は 電話九三番

平 四丁目  
**スガノヤ提灯店**

諸毒下しの大妙藥  
**安流丸**  
特約 山野 遠藥局

盛夏サロンの新装  
店内清楚にして接待よく  
アイスクリーム (十五錢)  
タンク入りソーダ水(十五錢)  
どうぞ御用命を……

山町 **サロン**  
電話 三五二番  
(男給見習數名募集)

**共済病院**  
平町・電話六四一番

價廉物美  
質高價廉  
高島屋

和洋雜貨  
食品廣く  
備蓄品多し

電話 四一五 町平城縣

生命保險證書 即時御融進シマス  
國債優取立チ御依頼ニ應ジマス。  
債務ノ整理御依頼ニ應ジマス。

平町南町廿三夜側  
會社 **寶商社** 伊東

模範 裁縫  
夏服の御用命は  
高島屋へ

**高島屋洋服店**  
平町驛前 電話三八六番

新柄着荷

外科 (内臓外科) 醫學士 内木 宗八  
外科 (整形外科) 醫學士 内木 宗八  
産科、婦人科 院長 木村寅次郎  
平町新川町一九 (電話一六四番) **木村病院**